

新規事業採択時評価結果（平成31年度新規事業化箇所）

担当課：国道・技術課
担当課長名：東川 直正

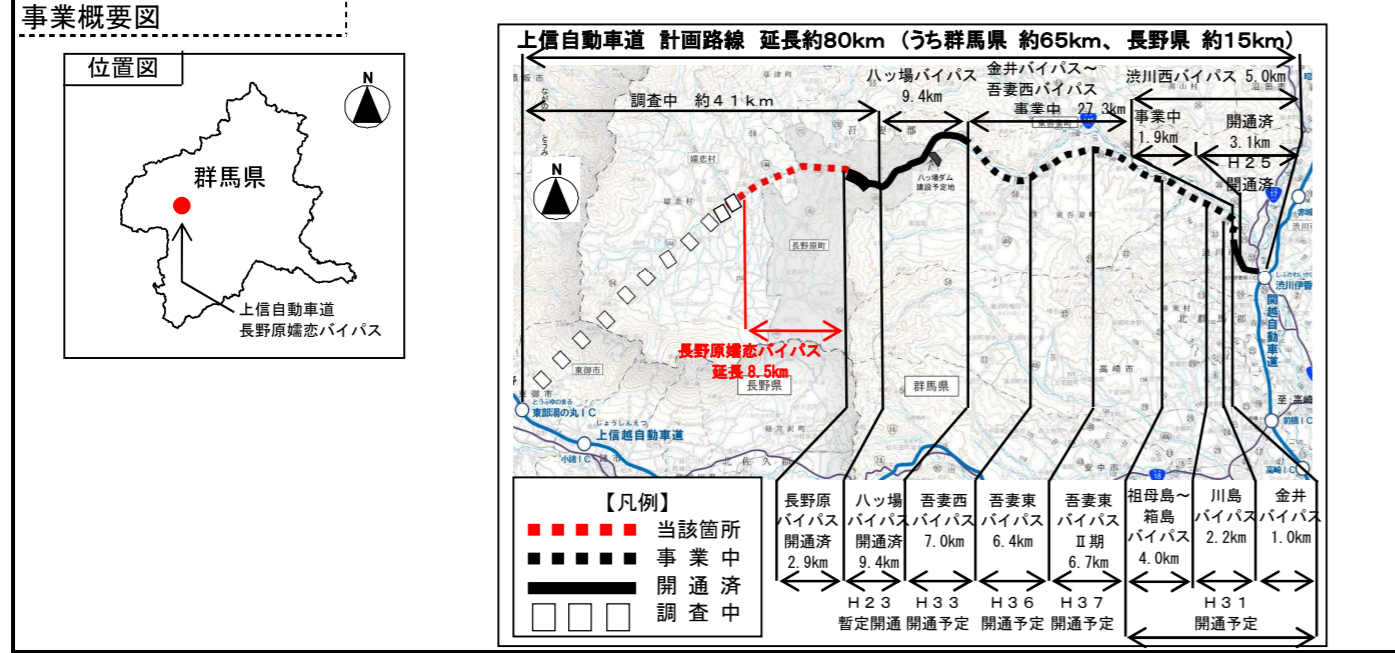
事業の概要

事業名	地域高規格道路 上信自動車道 一般国道144号 長野原嬭恋バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	群馬県
起終点	自：群馬県吾妻郡長野原町与喜屋 至：群馬県吾妻郡嬭恋村鎌原	延長	8.5km		

事業概要
上信自動車道は、群馬県渋川市の関越自動車道・渋川伊香保インターチェンジから長野県東御市の上信越自動車道東部湯の丸インターチェンジへ至る約80kmの計画中の地域高規格道路であり、現在、渋川西バイパス（直轄）、金井バイパス、川島バイパス、祖母島～箱島バイパス、吾妻東バイパスⅡ期、吾妻東バイパス、吾妻西バイパスが事業中で、ハツ場バイパスが全線供用、渋川西バイパスの一部区間が供用している。

事業の目的、必要性
長野原嬭恋バイパスは、
・災害時の迂回機能を強化し、安定した代替ルート確保することで、孤立化リスクの解消
・高速ICへの移動時間短縮に寄与し、速達性向上によるキャベツ即日販売圏域の拡大等、地域活力の向上に資する道路である。

全体事業費	約220億円	計画交通量	6,800～11,000台/日
-------	--------	-------	-----------------



関係する地方公共団体等の意見
渋川市等の沿線3市4町2村の関係首長、議会議長で組織する「上信自動車道建設促進期成同盟会」により長年に渡り強い整備要望があり、平成28年度12月の群馬県議会にて早期整備区間指定の請願が採択された。県町村会、地域別市町村懇談会でも、関係首長より強い早期整備要望がある。

学識経験者等の第三者委員会の意見

事業採択の前提条件
便益が費用を上回っている。
沿線自治体より早期の要望を受けており、円滑な事業執行の環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.8	総費用：約154億円 （事業費：約146億円 維持管理費：約8億円）	総便益：約281億円 （走行時間短縮便益：約272億円 走行費用減少便益：約5億円 交通事故減少便益：約4億円）	基準年：平成30年
	感度分析の結果		交通量変動 B/C=2.0 (交通量 -10%)	B/C=1.7 (交通量 +10%)	
			事業費変動 B/C=1.7 (事業費 +10%)	B/C=2.0 (事業費 -10%)	
			事業期間変動 B/C=1.8 (事業期間 +20%)	B/C=1.9 (事業期間 -20%)	

事業の影響	評価項目	評価	根拠
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	—
事故対策		○	上信自動車道と並行する国道144号の事故が減少 【死傷事故率（H24～H27）】死傷事故率全国平均2倍以上の区間が2箇所 羽根尾交差点：約182.0件/億台km 笹平交差点～三原大橋交差点：約153.4件/億台km （全国平均：73.5件/億台km（H27）） その他の箇所においても線形不良に起因する事故が発生。 工作物衝突：3件/4年、正面衝突：2件/4年（笹平交差点～大津交差点）
歩行空間		—	注目すべき影響はない
社会全体への影響	住民生活	◎	交通混雑の解消、交通安全性の向上により、地域住民の円滑な移動が確保できる。 重篤患者について、高速性、安定性の高い道路での救急搬送が可能になる。 （周産期医療施設及び第2次医療施設の60分到達圏域増加）
	地域経済	◎	吾妻地域内の幹線ネットワークが形成され、速達性が向上することで地域間交流の活性化が図られる。 （嬭恋村特産キャベツ搬送5時間圏域増加）（草津温泉3時間圏域増加）
	災害	◎	迂回機能が強化され、緊急時の安定した輸送ルートが確保される。 （孤立化リスク及び浅間山噴火の危険を抱える長野原町以西へアクセス強化） （緊急輸送路である国道144号の代替機能を確保）
	環境	—	注目すべき影響はない
	地域社会	○	主要都市間の移動時間が短縮し、定時性・速達性が向上する。 （嬭恋村～渋川市の所要時間：国道ルート4分短縮（整備なし86分→整備あり82分））
事業実施環境	○	本路線は群馬県の「7つの交通軸構想」における吾妻軸の主軸を担う地域高規格道路であり、渋川市等の沿線3市4町2村の関係首長、議会議長で組織する「上信自動車道建設促進期成同盟会」により整備の要望がされている。	

採択の理由

事業主体である群馬県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.8と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
また、周辺の地域経済の活性化、緊急輸送道路の機能強化、周産期医療への到達時間圏域増加などが期待される等、当該事業の整備の必要性・社会全体の効果は高いと判断される。
以上により、本事業は平成31年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。費用便益比は1.8と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

新規事業採択時評価結果（平成31年度新規事業化箇所）

事業評価結果（防災機能）

事業の必要性		
<ul style="list-style-type: none"> 本道路は、災害時のネットワーク機能を強化し、安定した代替ルートを確認することで、嬭恋村の孤立リスクを解消するとともに、救急医療活動の支援、キャベツ輸送の速達化・効率化による地域経済の活性化に寄与するものである。 		
評価項目	地域の課題	関連する計画
救助活動等	<ul style="list-style-type: none"> 当該区間の並行現道である国道144号は、嬭恋村を東西に横断する唯一の幹線道路であり、「第一次緊急輸送道路」に指定されている。 しかし、国道144号現道には雨量規制区間（累計雨量）があり、災害等により過去12年間で4回の通行規制が発生している。 迂回路となる周辺道路も脆弱で、平成19年度の集中豪雨では、144号を含む周辺11路線15箇所でも全面通行止めとなり、嬭恋村が一時孤立したことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ※はばたけ群馬・県土整備プラン（H30.3） 大規模な災害に対して、円滑な避難や迅速な救命救助、復旧復興を可能にするため、緊急輸送道路ネットワークに基づく災害に強い道路整備を推進。
住民生活	<ul style="list-style-type: none"> 嬭恋村役場から第3次医療施設である前橋赤十字病院までは90分以上要する状況であり、第2次医療施設である西吾妻福祉病院（長野原町）までの搬送時間の短縮が課題である。 国道144号には多くの線形不良箇所及び狭小区間が多数あり、円滑な救急搬送に支障をきたしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ※はばたけ群馬・県土整備プラン（H30.3） 県内の中核的な医療施設へ30分でアクセスできる圏域内人口は、約9割に到達したが、更なるアクセス性の向上に向け、7つの交通軸の主軸や強化路線の整備など、誰もが安心して医療を受けられる環境づくりを推進。
地域経済 地域社会	<ul style="list-style-type: none"> 嬭恋村のキャベツの出荷量は年間21.5万トンで日本一であり、首都圏における即日販売圏域で約73%を占めている。 しかし、キャベツの主要な輸送ルートである国道144号には多くの線形不良箇所及び狭小区間があり、キャベツの品質確保が課題となっているだけでなく、トラックの大型化ができず、輸送の効率化を阻害する要因にもなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ※はばたけ群馬・県土整備プラン（H30.3） それぞれの地域の特性に応じた機能（工業・農業・観光・医療・防災）を有する広域的な幹線道路として、大規模バイパスや4車線道路の整備を計画的に推進。
その他		

事業の有効性									
<ul style="list-style-type: none"> 災害や事故等が発生した際の緊急輸送道路の強靱化され、孤立リスクを解消する。 通行規制区間を解消するためのバイパスができる。 									
防災機能 道路ネットワーク	主な区間		改善ペア数	脆弱度 (防災機能ランク)		累積脆弱度 の変化量	改善度		評価
				整備前	整備後		通常時	災害時	
	中之条町	嬭恋村	1	1.0 (D)	0.0 (A)	10.5	0.08	1.00	◎

事業の効率性
<ul style="list-style-type: none"> 現在事業を推進している金井バイパス～八ッ場バイパス区間に続き長野原嬭恋バイパスを早期に事業着手することにより、西吾妻地域と県中部や高速交通網へのアクセス性の強化が図られ、西吾妻地域の観光や農業など主要産業の活性化が図られる。また、大規模災害時にも機能する道路網の構築により、地域の安全安心な生活環境を確保できる。

(※1) ○○○○には、「新規着工準備」または「新規事業化」のいずれかを記入する。